

月波千鳥蒔絵料紙箱

企画展

花鳥風月 — 日本の美を探る —

平成22年4月9日(金) — 5月23日(日)

- 開館時間 9時～17時(入館受付は16時30分まで) 月曜日休館(ただし5月3日(月)は開館し、6日(木)は休館します。)
- 入館料 一般300円 高校生200円 小・中学生無料 友の会会員無料
団体(20名様以上)、シルバーカード提示の方 2割引 障害者手帳提示の方・付添者・引率者 無料
- 主催 財団法人 林原美術館
- ギャラリートーク 毎週土曜日14時から(ただし4月24日はスペシャルギャラリートークを開催します)

林原美術館

〒700-0823 岡山市北区丸の内2-7-15 TEL(086)223-1733
<http://www.hayashibara-museumofart.jp>

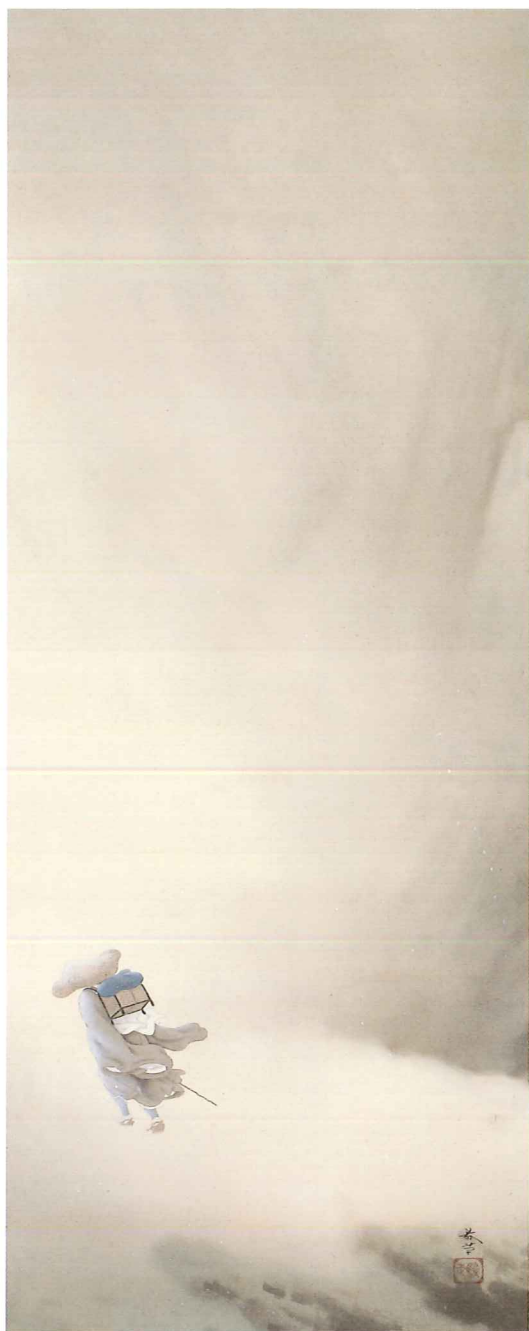
花鳥風月 —日本の美を探る—

日本人は花鳥風月という言葉に託して、自然の美を語ってきました。たとえば「風」とは様式や振るまい、振りを表す言葉であり、風物や風景の「風」でもありません。日本風のスタイルとはなにか、日本の美しさとはなにか、ということが、「花鳥風月」の中に表現されています。芭蕉に「造化にしたがひ四時を友とす」（『笈の小文』）という言葉がありますように、日本人は四季の移り変わりを楽しみ、自然の美しさ、雄大さ、時にはその厳しさに感動しながら生活を営んでいるのです。

本展では、日本の自然美が表現される

近世・近代に制作された絵画、能装束、蒔絵、陶磁器を展示します。色とりどりに彩られた植物、鳥に代表される動物、風そよぎ水流れるさま、そして雲間に冴える月。これらは日本の美意識を語る上で欠くことのできないものです。また工芸品にあらわされた文様の数々は、絵画とはまた異なり、大胆にデフォルメされた様式化された美しさを伝えてくれます。

本展を通して、日本人がどのように自然を感受し、それらを表現してきたのかを振り返っていただきたいと思います。



時類 菱田春草筆



段に籠目と菊に蝶蜻蛉文様唐織（部分）



色絵金欄手桜樹図長方徳利



猫図 酒井抱一筆

林原美術館

HAYASHIBARA MUSEUM OF ART

〒700-0823 岡山市北区丸の内2-7-15 TEL(086)223-1733 FAX(086)226-3089

<http://www.hayashibara-museumofart.jp>

* 車椅子対応の設備あります。

交通/JR岡山駅から徒歩25分/路面電車[東山行]県庁前下車徒歩7分

岡電バス[岡電高屋行]県庁前下車徒歩3分

宇野バス[瀬戸駅前行・四御神行]県庁前下車徒歩3分



次回予告

特別展

「北村美術館茶の湯の名品と館蔵茶具」

平成22年6月5日(土)~7月25日(日)

北村美術館は、故北村謹次郎翁のコレクションを基礎とし、昭和52年に京都における茶道関係の美術館の先駆けとして開館した美術館です。北村美術館ご所蔵の茶の湯道具の名品を、夏の道具の取り合わせを中心にご紹介し、併せて当館所蔵の大田垣蓮月尼の作品や、茶道具をご覧ください。